

日本産業教育学会・中国四国地区部会  
2017年度 第2回地区部会 研究会および学校見学会(議事録メモ)

\*日時: 2017年8月25日(金)14:00-17:45

\*場所: 河原学園 河原医療大学校および人間環境大学松山看護学部(愛媛県松山市花園町3-6)  
(<http://www.kawahara.ac.jp/emsi/>および <http://www.uhe.ac.jp/index.html>)

\*出席者(順不同/敬称略):(合計8名)

日本産業教育学会員4名

片山勝己(放送大学学生・マツダ株式会社 =日本産業教育学会HP速報作成)

寺田盛紀(岡山理科大学キャリア支援センター教授)

平田眞一(学校法人第一平田学園理事長・日本産業教育学会理事・中四国地区部会長)

長尾由希子(聖カタリナ大学人間社会学科教授)(=議事録作成)

オブザーバー参加者1名

大久保元正(聖カタリナ大学人間社会学科講師)

河原学園からの参加者3名

河原成紀(河原学園理事長・河原ビューティーモード専門学校校長)、吉村誠(河原学園医療大学校事務長)、朝田法彦(人間環境大学事務局松山キャンパス事務部部长)

\*\*\*

1. 部会代表挨拶(14:00~)@河原医療大学校会議室 平田部会長挨拶

・河原学園は西日本最大級の学校法人である。今回、平田地区部会長と河原学園理事長が学校法人経営者仲間であるため、オープンキャンパス前日というご多忙のところ、見学と理事長同席での会合が実現した。

2. 見学先代表挨拶および参加者自己紹介(14:10~) (略)

3. 質疑応答(14:30~)

・河原学園の理事長、医療大学校事務長、人間環境大学松山キャンパス事務部部长に対して参加者が質問をし、いただいた回答を受けてさらに議論が進むというように、非常に活発で率直な質疑応答がなされた。同じ医療系で専門学校と大学をもっていることを中心に、学生層や修業年限の変更、制度上運用上の棲み分けなどが主要テーマとなった。同じく学校法人理事長である平田地区部会長と、職業実践専門課程のPR効果、専門職大学についての考えなど、経営者同士の意見交換もなされた。

4. 学会見学(15:30~)

・河原学園医療大学校および人間環境大学松山看護学部(キャンパスが隣接)の施設内を見学。専門学校と大学は隣接(内部は連続)したキャンパスであるが、それぞれ別個に認可を受けており、施設設備も基本的に独立していた。充実した実習設備と、学生が休日であるにもかかわらず自習に取り組む姿が印象的であった。

5. 地区部会研究会(16:30~17:10@河原学園会議室、17:15~17:45@聖カタリナ大学松山市駅キャンパス会議室)

## ＜地区部会研究会研究報告・連絡事項＞

### (1) 2017 年度決算報告(別紙資料)および部会費徴収について(審議事項)(長尾)

別紙資料(略)をもとに、標題の件について審議し、承認がなされた。また、出席者合意のもとで地区部会費について出席者を中心に部会費の徴収(2017年9月1日～2018年8月31日分、地区部会費1000円/1年間(地区部会規約))を行った。

また、タグチカズコ会員について、地区部会会員ではなくオブザーバー会員とすることが了承された。

今回参加できなかった岡村慎一会員からは2年分、伊藤一統会員からは1年分の地区部会費を集める必要があるが、これに関しては2017年度日本産業教育学会大会にて、平田地区部会長にお願いすることとなった。

前回見学させていただいた広島地区の日本産業教育学会新入会員については、地区部会への参加意向を確認しておらず、今後、大会あるいはメールなどで確認することとなった。

### (2) 研究報告①(寺田先生:専門職大学成立の社会学的解釈(AASVET 報告予定内容))

論稿タイトル「専門職大学の制度化過程における政策社会学的分析」(別紙資料保管)

専門職大学の制度化に関しては、審議過程の議事録に注目した論稿があるが(小田茜、日本産業教育学会『産業教育学研究』第47巻第2号)、本報告は、審議過程のほとんどに参加した当事者としての目線から、複数の利害関係団体の「闘争と妥協」(Simmel)のプロセスを整理・分析し、日本やアジアにおける職業教育の政策社会学的研究の整備を試みる論稿である。地区部会会合では、その概要が報告された。政治的な文脈の変化、関係団体の力学や所管部局の変化、経済界や専修学校団体の関与などが総合的に絡まり、専門職大学の実現に結実していったとする概要が報告された。

### (3) 研究報告②(片山さま:「高専」について(日本産業教育学会大会ラウンドテーブルの告知)(別紙資料保管))

今年度の日本産業教育学会第58回大会にて、片山氏と名古屋大学外国人研究員の于氏がラウンドテーブルを予定しており(「高専(高等専門学校)について語り合おう ～「高専輸出」をトリガーワードとして」)、その告知と概要報告がなされた。日本の高専の優れた点のみならず課題も明らかにするため、国際比較の観点で自由に語り合う方式とするとのことであった。寺田氏からは、サブタイトルの「高専輸出」について、新聞記事に掲載されていたとはいえ、文化摩擦などに配慮すると国際比較の枠組みでは適切な表現ではないのではないかというアドバイスがなされた。

### (4) その他

- ① 片山氏より、学会事務局本部に報告する活動報告の下案(別紙資料保管)を試作した旨報告があり、本部への活動報告は片山氏に作成していただくこととなった。また、本地区部会会合の速報を片山氏が学会HP上に掲載することとなった。
- ② 長尾より、今年度の日本産業教育学会大会には参加できないため、平田地区部会長に本部からの補助金を受け取ってほしい旨打診があり、承認された。
- ③ 次回の地区部会開催場所について、引き続き検討していくこととなった。

以上

作成 2017年9月15日(金) 長尾由希子(文責)